

もっと広がる クスリの世界

多すぎる薬

あなたやあなたのご家族は、医療機関から処方された薬を服用していますか？ 服用されている方の中には、薬が多いと感じている方もおられるでしょう。2014年の厚生労働省の調査によると、60歳を超えると七つ以上の薬を処方される割合が増え、75歳以上では約4人に1人が七つ以上の薬を受け取っています。こ

飲み間違いや副作用注意

れは、高齢になるにつれて生活習慣病をはじめとする複数の慢性疾患にかかることが一因です。

服用する薬が多いと、飲み間違いの原因にもなります。また、薬が増えることは、副作用が起こりやすくなることに関係しています。高齢者に起こりやすい副作用には、ふらつき・転倒や物忘れなどが挙げられます。高齢になると骨がもろくなって骨折する危険性が高まります。骨折による入院が、認知症のきっかけとなることもあります。さらには、多すぎる薬には、注意すべき飲み合

わせが増えます。これらのことから、多すぎる薬を減らすことが大切といわれています。

しかし、薬を減らすために、自分の判断で薬をやめることや服用する量を減らすことは避けるべきです。必要な薬は正しく使用することが大切です。服用している薬が多いと感じる時には、まずは医師や薬剤師に相談してください。また、複数の医療機関から薬を処方されている方は、薬が重複したり増えすぎたりするのを防ぐために、お薬手帳を活用して、医師や薬剤師に服用している薬を正しく伝えてください。その際

には、サプリメントや市販薬についても伝えるようにしましょう。かかりつけ薬剤師制度を活用するのも有効です。薬の種類が減らなくても、服用する時間をそろえたり、服用しやすい薬に替えたりできるかもしれません。

「多すぎる薬」の解決には、患者さんだけでなく医療者の意識を変えることも重要です。われわれ医療者も多すぎる薬にもっと目を向ける必要があります。

（宮本 康敬・県病院薬剤師会理事）
＜毎月第4火曜日に掲載＞